



茨城県 もりや 守谷市教育委員会

「創る」力の土台に eライブラリ ～ eライブラリで実現する守谷型 G I G A スクール構想～

守谷市が進める「学校教育改革プラン」は、対教職員・対児童生徒の両輪で、児童生徒の学びの質の向上を目指します。創造的・論理的に思考する「創る」力の育成、学びに向かう力の育成の土台に、eライブラリが活かされています。

テスト返却の時間を個別最適な学習時間に 守谷市立御所ヶ丘小学校 ごしょがおか



▲タブレットパスポート

▲タブレットやアプリの操作に必要な情報をまとめた「タブレットパスポート」を活用。

算数 3年：小数

3年の萩谷先生の授業では、**テスト返却後の見直しが終わった児童から、eライブラリで同単元のドリル**に取り組みます。先生からあらかじめ「学習指示」で出題された中から、児童は慣れた様子で各々ドリル教材を選び、自分のペースで学習を進めます。

先生は「**続きは空き時間や、家で頑張るのも良いね**」と声を掛けていました。

個別対応も、クラス全体を見渡しながら



▲進捗状況モニタリング画面

▲質問対応中も、先生のタブレットにはつねにドリルの進捗状況が表示されています。

先生は、質問対応や机間巡視をします。その間、**手元のタブレットにはモニタリング画面が表示され、進捗状況の把握が容易**です。

ドリル学習が進むと、後半はテスト見直しとドリルで理解度が進んだかを確認するため「確認テスト」が出題されました。児童からは「小数のラスボスだ！」とやる気に満ちた歓声があがり、「難しい問題があるから気をつけて！」と声を掛け合いながら取り組んでいました。

ICT環境を生かす取組み

一人一台タブレットが導入され、eライブラリは一層使いやすくなりました。

今夏、オンライン授業期間が約一か月ありましたが、**eライブラリも含めさまざまなツールを、試行錯誤しながら使い分けていました。ICT支援員との協力体制もあって積み上げたこのノウハウは、通常授業にも活かされています。**

また、家庭にもICTが受け入れられ、これまでは「自主学習に何をさせればよいか困っている」と言われていた保護者の声が「eライブラリなら最適」に変化し、保護者の負担感軽減につながっています。



情報主任・3年担任
萩谷 和希 先生

教育委員会のビジョンを学校へ伝えるアプローチ

- 大型電子黒板・デジタルノート・AI型ドリル（eライブラリ）の整備
- 学校と教育委員会をつなぐICT支援員の配置

タブレットでテンポよく、でも問題はしっかり考える



▲めあてを全体に共有。先生の問いかけ一つひとつに「はい！」と元気に返事。

算数 6年：場合の数

6年の片岡先生の授業では、「確認テスト」を単元の復習に利用しました。

先生から本時のめあてと流れが説明された後、児童はeライブラリで学習を始めます。すると両手ですいすいとタブレットを操作していた児童ですが、問題の画面を開いたとたん手が止まりました。**問題文をしっかりと読んで考え、答えを出している**ことが分かります。

苦手を見直し、「ふりかえり」で達成感



▲学習回数に応じて成長する植物や、記録カレンダーの状況が気になるようです。

「確認テスト」には、採点后、**苦手と判定された学習要素ごとに、ドリルをおすすめする機能**があります。

テストを終えた児童は、次々におすすめドリルを解いて、**自分の苦手なところ**を見直していきます。

先生から時間終了の声が掛かると、「ふりかえり」の画面を開く児童が。タブレットを手に、「葉っぱが増えたよ！」と嬉しそうに友達と見せ合いをしていました。

eライブラリで児童の意欲アップ

eライブラリで行う問題演習は、確実に児童の意欲アップになっています。

問題番号が並んでいることで**ゴールが見通せ、各問で正誤がわかり「○」が増えていくことで、励みになる**ようです。「×」でも解答解説を見て「どこが違ったんだろう」とすぐ振り返って考えられ、しかもそれが各自でできます。

「ふりかえり」の植物の成長が楽しみで「どんどん先へ進みたい」という児童が多いのですが、eライブラリのドリルでは**全員が揃うことを待つ必要がなく、各自の学習ペースを崩さず、意欲を止めず進められます。**



6年担任
片岡 勇人 先生

インタビュー

現場に寄りそう「守谷市 学校教育改革プラン」

「学校教育改革プラン」を根本理念とし、国が進めるGIGAスクール構想を守谷型に落とし込み、教育委員会のビジョンを定めています。また、ビジョンをもって**推進していくだけでなく、学校現場に寄りそって利便性を伝えていく**ことも重視しています。

方針は二つ、**授業の現場に必要なICT環境を充実させること**——個別最適化が図れるAI型ドリル（eライブラリ）、大型電子黒板、デジタルノートを揃え、それらを連携して活用すること——と、**学校現場の指導力向上に必要なサポートをしていくこと**——ビジョンを伝えるICT支援員の

配置、独自の教職員研修サイトや保護者限定の学校ポータルサイトなどバックアップ体制の整備——です。この方針に、eライブラリは欠かせないものと考えています。



守谷市教育委員会
嶋田 知成 指導主事